

研究授業「図画工作Ⅰ－Ⅱ」の実施報告

小 西 博 子*

Enforcement and reflection of an open class “Art and Crafts I – II”

Hiroko Konishi

要約

本稿は、高松短期大学保育学科において実施した平成25年（2013年）度第2回研究授業「図画工作Ⅰ－Ⅱ」の実施報告である。

保育学科の専任教員がそれぞれの授業を公開し、検討会において改善すべき点を指摘し合い、学び合う。そして自らの授業を自己分析し、よりよい授業実践のために工夫して教育・学習方法の改善を図っている。

今回実施した内容は「しくみで遊ぶ立体イメージ・ポップアップカードのしくみ」であり、その第2回目の授業の「ポップアップカードの試作」の実施概要と検討事項である。

キーワード：授業公開、図画工作、基本構造（しくみ）

(Abstract)

This paper is a record of the second open class of Arts and Crafts I-II, conducted in the Department of Early Childhood Education of Takamatsu Junior College, in the year 2013.

Each full-time teacher in the department opens their classes to other teachers for observation. It is hoped that each teacher will strive to improve their own teaching strategies and their students' learning strategies by observing and comparing other classes and then analyzing their own classes.

This paper will describe: first, what was done in the class, the topic of which was “Playing through structures of 3-D images--the structure of pop-up cards”, which specifically dealt with “trial manufacturing of pop-up cards” and second, what should be improved regarding the teaching strategy.

* 提出年月日2014年6月30日、高松短期大学保育学科准教授

Keywords : open class, arts and crafts, structure

はじめに

「図画工作Ⅰ－Ⅱ」は1年前期に実施される「図画工作Ⅰ－Ⅰ」の単位を修得した者が履修できる専門科目である。そして卒業必修科目でもあり、幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目で「保育・教育の内容と方法の理解に関する科目」に位置づけられている。

また保育士資格取得のための選択必修科目でもある。

実技を中心に授業を進めているが理論と鑑賞を交え、幅広い知識、技能を身につけることができるように工夫している。

1. 研究授業の実施

研究授業および検討会は次の日程で実施した。

(1) 研究授業

日 時：平成25年11月27日（水）5校時（16:20～17:50）

場 所：2号館1階2104図工室2

科 目：図画工作Ⅰ－Ⅱ

担 当：小西 博子

講義形式：演習

対象学年：1年（99名）（イ）（ロ）（ハ）（ニ）4クラス編成の内

（ロ）クラス24名

対象学科：保育学科

参観教員数：保育学科教員9名

(2) 検討会

日 時：平成25年11月29日（金）4校時

場 所：2号館4階2410教室

参加者数：保育学科教員10名

2. 2014履修ガイドにより「図画工作Ⅰ－Ⅱ」の授業計画の紹介

(1) 【授業の紹介】

本科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、保育士資格の選択科目で

あり、卒業必修科目でもあります。

身近な自然や伝統的な文化の中から魅力を発見し、美しさを味わい楽しみながら
図画工作に対しての関心を深めます。心と手と頭をいつも一緒に働かせ、感じたこ
とや考えたことを自己表現しながら保育技術に必要な応用的知識や技能を身につけ
ます。

(2) 【教育目標】

- ① 色彩や形態ならびに美術作品が子どもの感性や情操に与える意義の理解を通し
て、使命感や倫理観を高める。
- ② 美術作品の鑑賞ならびに製作トレーニングなどの美術活動を継続的に取り組む
ことによって人間性を育む。
- ③ 美術（色彩・形態・素材等）、ならびに保育における子どもの美術活動に関す
る専門的基礎知識や判断力を習得する。
- ④ 多様な美術表現技能（描画・造形製作等）の向上、ならびに子どもに適した望
ましい保育実践を構想する。

以上の4つの目標でみなさんが保育学科の目指す保育者像に近づくことを目指し
ます。

(3) 【成績の評価】

課題作品・レポート及びその提出状況、受講態度、出席状況などで総合的に評価
します。

(4) 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 粘土やその他の素材の特性と扱い方
- 第2回 紙粘土による造形作品のラフスケッチ
- 第3回 紙粘土による造形作品の試作
- 第4回 紙粘土による造形作品の表現
- 第5回 紙粘土による造形作品の表現・着彩
- 第6回 紙粘土による造形作品の表現・着彩・鑑賞
- 第7回 美術館視察またはVTRによる美術作品の鑑賞
- 第8回 しくみで遊ぶ立体イメージ ポップアップカードのしくみ
- 第9回 ポップアップカードの試作（本時）
- 第10回 ポップアップカードの表現

第11回 ポップアップカードの表現・鑑賞

第12回 しくみで遊ぶ立体イメージ・立体からくりのしくみ

第13回 立体からくりの試作

第14回 立体からくりの表現

第15回 立体からくりの表現・子どもの造形作品の見方と評価

(5) 【授業時間外の学習】

作品制作においては授業時間内に成果を上げることが求めます。そのため資料収集などの事前準備をして授業に備える必要があります。予定の進度まで到達しない場合は授業時間外での取り組みが必要となります。

(6) 【使用テキスト】

中野隆二・村田利裕 著『幼児・初等教育 造形コース』日本色研事業（株）、2011年。

(7) 【参考文献】

随時紹介します。

(8) その他

3. 本時の概要

(1) 授業題目：しくみで遊ぶ立体イメージ「ポップアップカードのしくみ」

ポップアップカードの試作 「絵本の一場面から」

(2) 本時の指導目標：

シラバスにおいて保育学科の目指す保育者像に近づくための4つの目標をあげているがその内本時は③美術（色彩・形態・素材等）、ならびに保育における子どもの美術活動に関する専門的基礎知識や判断力を習得する。④多様な美術表現技能（描画・造形製作等）の向上、ならびに子どもに適した望ましい保育実践を構想するための2項目の達成を目指す。

(3) 授業内容、指導上の留意点・工夫：以下の指導案のとおり

研究授業までの過程と本時の内容：

第8回 しくみで遊ぶ立体イメージ・ポップアップカードのしくみ

- ・ VTRにてポップアップカードのしくみの考察
- ・ 基本構造の試作

<課題>

一辺18cm×36cmの画用紙を二つ折りにし、カードの内側に下記の①②③型の構造を貼り付けなさい。

- ① Y字型（二つ折り）V型とも呼ぶ・・・2種類
- ② テント型（二つ折り）
- ③ 筒型（箱型）段型とも呼ぶ

参照：教科書 中野隆二・村田利裕 著『幼児・初等教育 造形コース』

日本色研事業（株）、2011年。P26

第9回(本時) ポップアップカードの試作

- ・ 感動した絵本の一場面の内容把握
- ・ 基本構造の試作と応用
- ・ ポップアップカードの試作「絵本の一場面から」
平面の一場面を立体に変化させるしくみの検討

第10回 ポップアップカードの表現

第11回 ポップアップカードの表現・鑑賞

本時の指導案

図画工作 I - II	保育学科1年(口)24名	第9講 授業者	2013.11.27(水)5校時 小西 博子
題 目	しくみで遊ぶ立体イメージ「ポップアップカードのしくみ」 ポップアップカードの試作「絵本の一場面から」		
目 標	感動した絵本を鑑賞し、それを製作トレーニングなどの美術活動に取り入れることにより、多様な美術表現の向上を目指す。また子どもに適した望ましい保育実践を構想する。		
学習内容・学習活動・指導上の留意点			
16:20	出席点呼・準備物の確認・資料の配布		
16:25	1 感動した絵本の一場面の内容把握(文章にて) 絵本の題名: 作者: 絵: 出版社: 一場面の文章(内容):		
16:35	2 基本構造の試作と応用 ①V型 ②段型をさがそう。 「飛び出す絵本」から構造を理解する。 グループ(4名程度)で話し合う。		
16:50	3 ポップアップカードの試作「絵本の一場面から」 平面の一場面を立体に変化させるしくみの検討 ・ 受講者はそれぞれ表現したい場面のイメージをふくらませ、しくみの検討に取りかかる。(ケント紙配布) ・ しくみに絵や背景を組み合わせる。 ・ 個別に進み方の確認と作品が画一的にならないように指導をする。		
17:47	4 今後の予定と次時の準備物について・後片付け		
17:50	終了		

参考資料:

ロバート・サブダ『オズの魔法使い』大日本絵画、2007年。
 ロバート・サブダ、マシュー・ラインハート『SHARKS:海の怪獣たち』大日本絵画、2007年。
 ロバート・サブダ、マシュー・ラインハート『恐竜時代』大日本絵画、2007年。
 ロバート・サブダ『ナイト・ビフォー・クリスマス』大日本絵画、2007年。
 ロバート・サブダ『クッキー・カウント』大日本絵画、2007年。
 ロバート・サブダ『クリスマスの12日』大日本絵画、2007年。
 ロバート・サブダ、マシュー・ラインハート『MEGA BEASTS:絶滅した獣たち』大日本絵画、2007年。
 マシュー・ラインハート、ロバート・サブダ『神々と英雄』大日本絵画、2010年。

マシュー・ラインハート『ドラゴンとモンスター：エンサイクロペディア神話の世界』大日本絵画、2011年。

ロバート・サブダ、原作J・M・バリ『ピーターパン』大日本絵画、2012年。

紙工作 ロバート・サブダ、マシュー・ラインハート、作・絵 トミー・デ・パオラ

『まほうつかいのノナばあさん』大日本絵画、2011年。

原作 やなせたかし、考案 石井 信久『とびだせアンパンマン アンパンマンとジャンプ』フレーベル館、2002年。

4. 学生の状況

1年の前期に図画工作I-Iを受講した学生が後期に受講する科目で保育技術に必要な応用的知識や技能をさらに高めることを目指している。

学生は保育者をめざす目的意識が高いので意欲的に取り組み、作品の完成度を上げようと根気よく取り組んでいる。頑張れば達成感が味わえる授業内容にも配慮して授業計画を立てており、時間内に予定の進捗まで到達できなかった場合は授業時間外の取り組みが必要となる。

一定のレベルに到達するまで頑張り、あきらめない学生を育てたいと指導する側もあきらめないで学生と対峙している。

5. 授業に対する参観者の評価

(1) 授業を積極的に評価できる点 (参観者の意見)

① 教育内容

本時の内容が保育職とどう関連していくのか、また、学生が自分のこととしてとらえられるように発問や導きがなされていた。

教員の発問に対して、学生自身が活動計画（作業予測）を立てる→見通しを持つ→作業の留意点に気付く、というように展開され、応答性のある授業内容であった。

学生のいきいきとした様子がとても印象的であった。実際に“心と手と頭を一緒に動かしている”せいもあると思ったが、学生のいつにも増して熱心で楽しげで自発的な様子が嬉しく感じられた。それも、授業者の今の学生傾向（平面から立体を想像するのが苦手）を踏まえた授業内容や学習材料、こまやかな個別指導とグループ活動あってのことと感服した。かつ、指導者の作品観、芸術観というのであろうか、枠組みにとらわれない自由な発想や予想外のことが起こってもそれを楽しむ余裕というか、小さく無難にまともならない冒険心（魂）のようなものに感動した。やはり自分も

今の学生に対して残念に思うことにも通じていたので、自分の座学のなかでも試してみたいと思う。

② 授業方法

個々の作業が中心となるが、グループ活動を取り入れることにより、多様な考えや気づきが得られる。

③ その他

見本のどこに着目するかを明確に提示・説明し、かつ個別に学生自身が気づくことができるような助言がなされていた。

素材（絵本）の選択のポイントについての説明がなされていた。このことは、今後の活動の取組みの動機づけになるので、重要である。

(2) 授業の改善にかかわる点（参観者の意見）

① 教育内容：特記事項なし

② 授業方法

個別指導で個々の能力や進度をフォローすることはとても大変なことと思った。そのようななか、結果（基礎技能）としての一定の到達度は期待できるのかという意見があった。というのも、時間外の課題（宿題）がどうしても生じるようだったので、する学生しない学生にどう対応しているか。授業者にかかるであろう手間と時間がとても心配になったという意見をいただいた。

その対策として授業計画の際に学生が手を抜いて完成するような課題はできるだけ避けている。

頑張ることや考えることにより、達成感を味わえる課題が次の創作意欲につながる。上手下手よりやる気や努力を評価し、一定の到達度に達していない場合はシラバスの【授業時間外の学習】に記載しているようにさらに取り組むことが必要となる。それが到達度のレベルを上げている。

③ その他

作業台上の整理整頓ができない学生がおり、作業の進み具合と比例していると感じた。学生にはどのように気付かせるとよいのだろうかというご意見をいただいた。

学生には保育所・幼稚園の先生の立場から考えるように指導している。しかし同じことを何度も繰り返してあきらめずに指導する忍耐力が必要である。

(3) 授業全体の感想（参観者の感想）

基本がきちんと押さえられると、発展に繋がる、基本が大切であることに気付かせることができる授業であると感じた。

数年ぶりに小西先生の授業を拝見させていただいて、そのレベルアップにとっても驚かされた。おそらく保育学生との格闘の末、相当の苦悩と試行錯誤あつてのことと感じて、学生がそのことにほんの少しでも気づいてくれたらと祈るような気分であった。本当にどの先生方もおっしゃっていたが、穏やかで、でもけじめのあるきちんと感のある授業で、体育の授業の後の学生も落ち着いて集中できていたように思う。あれほど、じっくり物を見てまねようとする学生の姿を久しぶりに見ることで私自身嬉しく感じたり、何だか彼らの未来に期待が大きく膨らんだ。

まとめ—授業改善の課題—

未だ授業方法においては学生と格闘しながら迷いながら一年一年を送っている。毎年授業に変化をつけ、工夫することにより、自分自身も楽しんで授業と関われることを喜んでいる。自分の作品制作の姿勢が学生の指導の助けになっているとこの頃強く感じるようになってきた。

授業改善するには自分のパワーが必要であること、伝える内容を常に磨くことが学生に受け止めてもらえる魅力であると感じるこのごろである。

図画工作の評価は作品完成においての「結果」と判断しがちである。思考・判断などの力は把握しづらく、簡単には測れない。それゆえに、そうした『過程』の部分は、今までは評価の面でも軽視されがちであったがそこをすくい上げなければならないと考えている。

そこでルーブリックの客観的で、しかも一貫性のある評価基準を作成することが大切になってくる。

毎時の準備の資料収集や思考の段階も可視化できるようにスケッチブックに日付を追って記録を残させ、思考の過程から完成に至るまでを段階毎に分けて到達目標に近づけたか評価を行っている。受講者も自分の評価されなかった部分を反省して次の段階につなげることができる。

そうすることで指導者自身の評価基準も明確になり、到達目標の実現に向けて最適な授業計画をたてることができるようになった。

資料 学生の完成作品

Figure 1



参考資料

■ 『Matthews Dream』

Leo Lionni 作・絵

学生作品

上杉 来瑠実

Figure 2



参考資料

■ 『もりのおふろ』

西村敏雄 作・絵

学生作品

安部 仁美

Figure 3



参考資料

■ 『はだかの王さま』

ハンス・クリスチャン・

アンデルセン 文

ヨゼフハレチェク 絵

学生作品

加地 佐彩

Figure 4



参考資料

■ 『ジャッキーのいもうと』

あいはら ひろゆき ぶん

あだち なみ え

学生作品

丸山 紗季

Figure 5

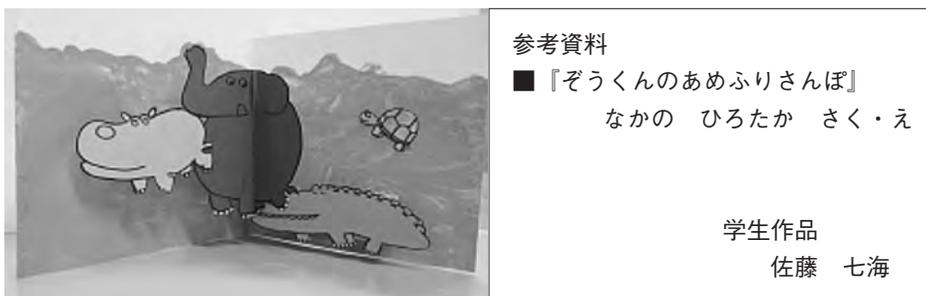
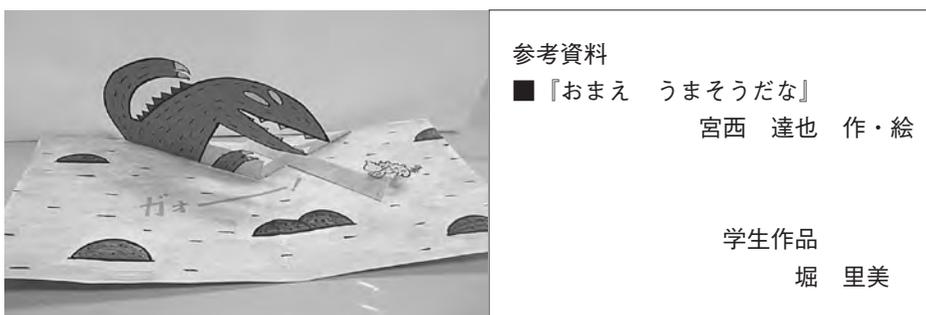


Figure 6



Figure 7



末筆ながら研究授業に協力いただいた学生の皆さん、また本稿に快く作品を掲載させていただいた学生の方々、そして貴重なご意見やご支援いただきました先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

執 筆 者 紹 介

O.Baterdene	モンゴル国	経済開発省	投資政策局	主	任
丸山 豊史	高松大学	経営学部	教授	准	教
山口 直木	高松大学	経営学部	准	教	授
岡本 丈彦	高松大学	経営学部	助	教	授
澤田 文男	高松大学	発達科学部	准	教	授
津村 怜花	高松大学	経営学部	准	教	授
花城 清紀	高松大学	経営学部	助	講	師
藤井明日香	高松大学	発達科学部	講	師	助
岡 耕平	滋慶医療科学大学院	大学	講	師	助
川崎 紘宗	高松大学	経営学部	講	師	助
竹内 由佳	高松大学	経営学部	助	講	師
向居 暁	高松大学	発達科学部	准	教	授
森 享子	高松大学	経営学部	非	常	勤
井上 範子	高松短期大学	教授	教	授	師
小西 博子	高松短期大学	准	教	授	師
藤井 雄三	高松短期大学	講	師	助	授
溝渕 利博	高松大学	発達科学部	准	教	授

研 究 紀 要

第62・63合併号

平成27年2月25日 印刷

平成27年2月28日 発行

編集発行

高 松 大 学

高松短期大学

〒761-0194 高松市春日町960番地

TEL (087) 841-3255

FAX (087) 844-4759

印 刷

株式会社 美巧社

高松市多賀町1-8-10

TEL (087) 833-5811